

令和4年度第1回 岐阜県青少年育成審議会 議事録

日 時	令和4年10月21日（金） 14:00～16:00
場 所	岐阜県水産会館 大会議室
出席者	<p><委員> 14名（欠席委員6名） 掛布委員、春日委員、田村委員、中川委員、成田委員、深谷委員、本多委員、吉田委員、大橋委員、久松委員、磯貝委員、林委員、荒尾委員、村瀬委員</p> <p><県> 8名 大野環境生活部次長、安田私学振興・青少年課長、島田少年課長、松中学校安全課企画監 他</p>

会議の概要

- 1 開 会
 - ・会議成立の報告
 - ・大野環境生活部次長あいさつ
 - ・新任委員の紹介
- 2 審議会の運営について
 - ・会長職務代理者の指名
 - ・部会長の指名
- 3 報告事項
 - ・有害興行の緊急指定について
 - ・有害図書類等の指定（包括指定の例示）について
 - ・岐阜県青少年育成事業の主な取組状況について
- 4 講話：「若者はなぜSNSにハマるのか
～現代の若者気質と情報ネットワーク/SNS～」
講師：村瀬 康一郎氏（岐阜女子大学特任教授）
- 5 意見交換
- 6 閉 会

議事の概要	
発言者	発言
	<p><新任委員の紹介> 前回の審議会以降、人事異動等により交代した委員を紹介した。</p> <p><議事録署名者の指名> 会長から本日の議事録署名者に、吉田委員と荒尾委員を指名した。</p> <p><会長職務代理者、部会委員及び部会長の指名> 会長から石黒委員を会長職務代理者に指名した。 部会委員について、出席委員に部会委員（案）を示して指名した。第1部会の部会長に石黒委員を指名した。</p> <p><審議会の運営について> 審議会の運営について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><有害興行の緊急指定について（報告）> 有害興行の緊急指定について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><有害図書類等の指定（包括指定の例示）について（報告）> 有害図書類等の指定（包括指定の例示）について、事務局から資料に基づき報告した。</p> <p><「岐阜県青少年育成事業の主な取組状況」について> 「岐阜県青少年育成事業の主な取組状況」について、事務局から資料に基づき説明した。</p>
村瀬委員	<p>立入調査件数について、平成27年度から令和3年度にかけて人員及び件数が減少しているが、どういった事情があるのか教えていただきたい。</p> <p>もう一点、「ぎふあおぞらキャンプ」という非常に良い事業があるとのことだが、スマホを触らないようにしようといった注意事項をどのように参加するお子さんに伝えているのか。</p>
事務局	<p>立入調査件数が減少している理由としては、まず、近年各コンビニ等での自主規制が非常に進んでいることが挙げられる。多くの大手コンビニでは、もう扱わないという対応がなされており、何十店舗も回ってようやく有害図書が見つかるといったところまできている。</p> <p>他の理由としては、立入調査を7月と11月を中心に行うという変更をしていること</p>

事務局	<p>が挙げられる。今までは毎月のように調査を行っていたが、自主規制が進んだことと、毎月陳列状況が変わるということがそもそもあまりないこと、また、教員の働き方改革という要請もあって、実施回数を減少させているところである。</p> <p>ぎふあおぞらキャンプの目的は、インターネットから離れて、インターネットがなくても楽しく規則正しい生活を過ごす経験をしてもらうということなので、参加するときは、当日は携帯電話は持ってこないようにというお願いを事前に行っている。</p> <p><青少年のインターネット利用の現状と課題に関する講話></p> <p>青少年のインターネット利用の現状と課題について、岐阜女子大学特任教授の村瀬康一郎様より説明があった。</p>
掛布委員	<p>ネット依存は、アルコール依存や薬物依存といった精神疾患とは違うものか。</p>
村瀬講師	<p>WHO でも同じ依存症として扱われている。ネット依存はアルコール依存等と同じように医療機関の診断を受けて治療をすることができる。</p>
掛布委員	<p>読売新聞の93万人（インターネット依存が疑われる中高生は全国に約93万人いるとする推計を厚生労働省が発表したという記事）というのは、医学的診断を受けた人数ではない、ということか。</p>
村瀬講師	<p>中高生へのアンケート結果である。依存症として医療機関の診断を受けた人数ではない。</p>
掛布委員	<p>ネット依存、スマホ依存は子どもの知的能力を低下させる危険性があると資料に載っているが、子どもを追跡調査した研究等の根拠はきちんとあるのか。</p>
村瀬講師	<p>それはない。ネット依存の子どもの周りにいる大人が、そのような傾向があるのではないかと、予兆として言われているもので、研究結果として数値が出ているものではない。</p>
吉田委員	<p>SNS のトラブルは、実は中学一年生が多い。昔は高校一年生になってから携帯を持ち始めていたが、最近は中学一年生からがほとんど。</p> <p>SNS のグループ内での問題が発覚した時には、もうすでに状況が進んでいる。問題が発覚してから保護者に見せるが、保護者はそのことに全く気付いていない。周りが誰も気が付かない中で、子どもが大変苦しんでいたりと、画像が拡散してしまっていたりなどしている。</p> <p>我々教師としては、こうして見えにくくなったところをどうやって顕在化していくか</p>

	<p>が問題となる。</p> <p>顕在化するには保護者の教育が必要なので、常にお願しているのは、一月に一回でいいから、保護者が SNS の中身を確認してくださいということ。子どもはパスワードをかけて見せたがらない場合もあるが、そこをきっちり確認していくことがこれからは大事になってくるのではないか。そこで、最初に子どもと約束して SNS を確認するというのを繰り返しお願している。</p>
田村会長	<p>今は一人一台タブレットが配布されており、いざそれを子どもから受け取って確認するとしても、確認の仕方が分からないという問題がある。子どもの方が進んでいて、中身が分からず、何を確認すればいいのか大人が分からないのが非常に難しいところだと感じる。</p>
村瀬委員	<p>親が子どもに「しっかり見ているよ、愛してるよ」というメッセージを伝えて、親がスマホの勉強もしつつ、子どもに携帯を与えて、その上で家庭でのルール作りをしっかりと行う、ということが大事だと常々感じている。</p> <p>米国の母親、ジャネル・ホフマンさんが考えた「スマホ18の約束」というのがあり、内容としては、たまには携帯から離れるとか、友達に対面で言えないことはスマホでも言わない等が挙げられているが、これは非常に参考になると思う。使い方を教育してスマホを持たせるということに尽きる。スマホやネット機器は文明の利器である。学校の教育場面でも使われている。うまく利用する方向にもっていけると良い。</p> <p>ルール作りについて教育委員会等から指針が示されていると思うが、今後はルール作りをした後のフォローの仕方を検討するとよいと思う。例えば、ルールを作った後にどうやって取り組んだかの報告をもらうようにするなど、フォローをもう少しできると、保護者に対する意識作りができるのではないかと思う。</p>
村瀬講師	<p>みんなで同じルールを守ることが大事だと考える。ある家庭が独自でルールを作っても、親が子どもの知識に負けてしまっているため、子どもに言い負かされてしまって決められないことがある。PTA でこういう風に決まったから等の理由付けでルールを決めるといった風に、親も集団で対抗する必要があると思う。</p> <p>加えて、持たせる前にルール作りを行うということも大事である。トラブルが起こりそうになってから慌ててルール作りをするのは難しい。</p> <p>また、忘れがちなのが、ルールを破ったときにどうするのかということ。子どもは約束を破ったとき、いかに許してもらえるかを考えて、演技をする。保護者もそれを見て、今回だけならと許してしまう。それでは解決にならないため、インターネットメールを解約してしまうなど、きちんとペナルティを課すことが大事である。もちろん、年齢に応じてルールを緩めていくことも大事である。</p>

中川委員	<p>高校生の息子に、友人とのメッセージの交換はインスタグラムを使っており、ラインは使っていないと言われたときには、もうついていけないと感じた。SNSは進化しているので、色々な場面でこういった講演を聞いて、頑張っただけで対応していかないといけないと思っている。</p>
田村会長	<p>今時は小学生もプログラミングの授業や、タブレットでの授業が当たり前になっており、本当に進んでいる。この流れは絶対に逆流させることはできないため、スマホを利用させないではなく、どのように良く利用させるかということが、社会全体の課題なのかなと思う。</p>
掛布委員	<p>不登校やネットいじめなど、問題となっている現象が様々あるが、それはスマホのせいなのか、他に原因があるのではないかと考えることが必要。スマホやゲームそのものに依存しているという問題と、それ以外のいじめや犯罪の問題を分けて考え、スマホが原因でない時は、スマホではない原因の方の解決策を考えないと、生産的ではない。</p> <p>例えば、スマホで成績が下がるという話があったが、スマホをする時間とは別で勉強時間を確保していれば問題ない。</p> <p>親も送迎等の便利さのためにスマホを買い与えている状況があり、スマホなしの社会はすでに考えられない。</p> <p>不登校でスマホばかりしている子どもについては、スマホだけを悪者にするのではなく、学校に通える方法を探すとか、ラインのやめ時が分からなくて夜中までやってしまうという問題については、やめ方が分からないというコミュニケーションスキルの問題なので、それを教えてあげるとか、ネットいじめはいじめの問題として扱う等、きちんとスマホとスマホ以外の問題を分けて考える。スマホを一概に悪者にするべきではないということをお願いしたい。</p> <p>もう一点、「スマホに子守をさせている」という問題があるが、若い保護者の方は、子どもを大人しく、静かにさせないといけないというプレッシャーを感じていらっしゃるのだと思う。日本は子育て中心の社会ではないので、周りの目を気にする必要がある、社会の問題でもあると思う。</p>
深谷委員	<p>ネットといかに共存していくかが重要ではないかと感じた。</p> <p>「ぎふあおぞらキャンプ」という素敵な取り組みで得たノウハウを、学校支援課の事業である道徳教育徹底指導事業等で直接現場に提供し、多くの子どもたちに生かすことはできないか。家庭で各自ルールを作るのは難しいので、学校で授業をして、スマホについての学校のルールを作るなどはできないか。</p>
田村会長	<p>以前から横の連携はできないかといった話があった中、第4次岐阜県青少年健全育成計画の施策にも育成団体と支援団体の連携強化が挙げられていたり、連携が進んでいると感じる。</p>

事務局	<p>ネット依存対策キャンプは事業検討委員会を設けて、学校関係者や教育委員会の方が委員として参加しており、事業へのご意見をいただいたり、成果を報告して行っている。また、事業終了後には報告書を各学校に配布する等して成果の共有をするなど連携している。また、ネット依存対策推進事業として、学校関係者への研修会を実施しており、ネット依存の現状やネット依存の児童生徒への接し方等を共有する場を設けている。</p>
村瀬委員	<p>岐阜県は、犯罪事実がないのに事前に手を打って JK ビジネス関係の条例改正を行った。通常、いわゆる立法事実があって、他の自治体の施策を参考にしながら条例などで規制するのが当たり前であり、どこの自治体でも同じと思っていたのでびっくりした。</p> <p>事前に対策を講ずるのが本来の行政のあるべき方向と考えられる。すばらしい対応であり、今後も青少年健全育成のため頑張っていたきたい。</p>
大橋委員	<p>当社でも、新入社員の方がデジタル関係のことを知っているということがよくある。村瀬講師の講話にあった「スマホがもたらす隠された3つの弊害」については、今後深刻な問題になるのかなということも思った。</p> <p>また、私共はニュースを扱っているが、フェイクニュース、ありえない情報を見極められるようにならないといけないという問題がある。SNS があるという前提で、正しい情報を見極めるスキルを子ども達に教えていくことが必要だと思う。</p>
久松委員	<p>私共も発信する立場なので、発信した情報を意図していない使われ方をすることもあ。私共としては、裏をとった正確な情報を流し続けることこそが大事であり、続けていくべきことだと考えている。</p> <p>また、青少年の健全育成のための様々な対策事業が行われていることが分かったため、それを発信して伝えていくことで、岐阜県に貢献ができるのかなと思う。</p>
田村会長	<p>本日は様々なご意見ありがとうございました。</p> <p>また、村瀬先生も貴重なご講話ありがとうございました。</p> <p>家庭でのルール作りに課題がございますけども、家庭だけの問題にはできないので、家庭、学校、地域、社会あらゆるところが連携して進めていかないと、事は進まないと思います。</p> <p>今後とも青少年育成の施策の前進に御協力お願いします。</p>